

杉村和彦「熱帯アフリカ焼畑農耕民研究」コレクションを事例として

写真データベースを活用したデジタルストーリーテリングで 研究人生をふりかえる

2023年**12月16日**(土)
14:00 ~ 17:00

国立民族学博物館・第4セミナー室

対面およびオンラインのハイブリッド開催 | 要事前申込
定員: 対面50名・オンライン100名(いずれも先着順) **参加無料**

▼参加申し込みはこちらまで
<https://diplas.net/simpo2023/>



国立民族学博物館の X-DiPLAS プロジェクトでは、文化人類学などのフィールドサイエンティストによって撮影された写真のデジタルアーカイブ事業を進めています。このシンポジウムでは、写真データベースの活用方法の一つとして、デジタルストーリーテリングという、写真とナレーションにより構成される映像作品づくりを提案し、その可能性を検討していきます。

今回 X-DiPLAS は、中央アフリカのザイル（現コンゴ民主共和国）や東アフリカのタンザニアなどで、アフリカ的な農業や農村社会の特性、ひいては「人間にとって農業とは何か」という根源的な問いを長年にわたり追究してこられたフィールドワーカー・杉村和彦氏の写真データベースを例に、特に1986年～1991年にかけてザイルの焼畑農村で撮影された写真の整理を進めつつ、それらを素材としたデジタルストーリーの制作をすすめてきました。今年度いっばいで定年退職を迎えられる杉村氏の、研究人生の一幕をふりかえる作品です。熱帯アフリカ焼畑農村の世界に思いを馳せつつ、こういった作品づくりが、研究者自身やソースコミュニティ、またあるいは私たちが生きる社会に何かを還元し得るのかを考えてみたいと思います。

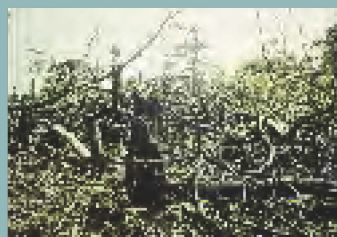
講師プロフィール

杉村 和彦

福井県立大学学術教養センター・教授。京都大学大学院農学研究科博士後期課程単位取得退学、博士（農学）。専門は、文化人類学、農村社会学、農業経済学。主な著作に、『アフリカ農民の経済 —組織原理の地域比較』（世界思想社、2004年、単著）、*Rethinking African Agriculture : how non-agrarian factors shape peasant livelihoods* (Routledge、2020年、共編著)、『アフリカから農を問い直す —自然社会の農学を求めて』（京都大学学術出版会、2023年、共編著）など。



(1986年、フィールドで撮影)



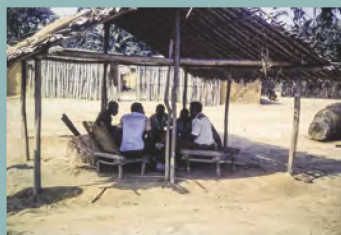
▲火入れ後の焼畑



▲コメを収穫する女性たち



▲コメの脱穀作業



▲男性たちの共食



▲子供たちの共食



▲女性たちの共食

プログラム

- 13:00 開場
- 14:00 開会挨拶 | 吉田憲司 (国立民族学博物館長)
- 14:05 趣旨説明 | 小林直明
(国立民族学博物館グローバル現象研究部・プロジェクト研究員)
- 14:15 映像作品の上映と解説 | 小林直明 (同上)
- 「1986-1991 —追憶のザイル、焼畑の村」**
- 14:45 講演 | 杉村和彦 (福井県立大学学術教養センター・教授)
- 「熱帯雨林のアフリカ —焼畑・混作・共食」**
- 15:30 休憩
- 15:40 コメントⅠ | 鶴田格 (近畿大学農学部・教授)
- コメントⅡ | 末原達郎 (京都大学農学部・名誉教授)
- コメントⅢ | 池谷和信 (国立民族学博物館人類文明誌研究部・教授)
- 16:10 ディスカッション
- 16:55 閉会挨拶 | 飯田卓 (国立民族学博物館グローバル現象研究部・教授)



国立民族学博物館
National Museum of Ethnology

お問い合わせ

〒565-8511

大阪府吹田市千里万博公園10号1番

国立民族学博物館研究協力課共同利用係

kikourenkei@minpaku.ac.jp

交通のご案内

大阪モノレール 「万博記念公園駅」「公園東口駅」下車徒歩約15分

バス 阪急茨木駅・JR 茨木駅から「日本庭園前」下車徒歩約15分

乗用車 万博記念公園「日本庭園前駐車場」(有料) から徒歩約5分

※万博記念公園各ゲートで、当館でのシンポジウムに参加する旨をお伝えください。

※当館の展示をご覧いただくには別途観覧料が必要です。

※万博記念公園をご利用になる場合は、同園入館料が必要です。

